

【いただいたご質問への回答】

ご質問	回答
<p>父が要介護2の認知症です。母が在宅で介護をしています。デイサービスは利用していますが、それでもまだ母の負担が大きいです。ショートステイというシステムを知りましたが、父を外泊させることで、かえって混乱させてしまうことはないでしょうか。</p>	<p>ショートステイ（短期入所生活介護）は特別養護老人ホームなどに1泊から宿泊して介護を受けられる介護保険サービスです。介護するご家族の負担軽減や休息のため、旅行や行事参加の際などに利用できます。お母様はお父様の介護に負担を感じておられるようなので、デイサービスと組み合わせてご利用されてはいかがでしょうか。</p> <p>ご相談者が心配されるように認知症の方は環境の変化に敏感なため利用を嫌がったり、混乱したり不安になることもあるので、認知症の方を受け入れている施設や認知症の方への対応がしっかりしている施設を探すよう担当のケアマネジャーとご相談ください。ショートステイも利用を続けることで慣れていきます。また、「ショートステイ」と「デイサービス」、「訪問介護」、「ケアマネジャー」の4つのサービスを馴染のスタッフから一か所で受けられる『小規模多機能型居宅介護』というサービスもありますので、ご両親様のお住まいの地域情報を調べてみてください。</p>
<p>80歳を過ぎている母がデイサービスや公民館での趣味サークルに行きたがらないのですが、勧める方法はありませんか？</p>	<p>運動や調理、裁縫や音楽等お母様がお好きなことはありませんか。そういった趣味の会やデイサービスを探して勧めていただく。また、他の参加者のフォローやお世話、教えるために参加して欲しいと伝えてみる。自治体が主催している場合は、地域包括支援センターに事前に相談してお手伝いとして参加して欲しいと声をかけていただくのも方法だと思います。私も最初はデイサービスに参加するのを嫌がる母にお手伝いに行ってみてほしいと伝え、デイサービスのスタッフと相談してタオルを畳んだり、ちょっとした軽作業をお願いしてもらいました。あまり強く勧めると意固地になってしまうので、様子を見ながら周囲の力を借りてみてはいかがでしょうか。</p>
<p>親が認知症と診断され、これから介護保険の申請予定です。認定調査が必要と聞いたのですが、その際に気を付けたほうがいいことはありますか？</p>	<p>認定調査は全国共通で74項目の質問に沿って調査員が聞き取りをおこないます。これはどの程度介護が必要なのかを測るもので、歩行や立ち上がりといった身体機能や食事や入浴などの生活のこと、今の季節や生年月日など認知機能に関する項目があります。調査の日には親御さんの日頃の様子をよく知っている人が立ち会いましょう。また、本人の前では言いにくい認知症状や介護で困っていることをメモにして調査員に渡すと要介護認定に反映されますので、事前に準備されることをおすすめします。</p>
<p>アルツハイマー型認知症の母親を父が介護しています。父がなんでもやってしまうため、母の症状が進まないか心配です。</p>	<p>お父様がお母様の介護をしっかりされているんですね。認知症になってもできることはたくさんあります。ただ、時間がかかったり、間違えてしまうことも多いので、介護している側からすると「良かれと思って」すべてを代わりにやってしまうことがあります。ですが、できる事は本人にやってもらう、間違えても危険が無ければそのまま見守ることが症状の進行やBPSD（行動・心理症状）の抑制に効果的だと言われています。認知症の方は「自分がこの場にいてもいい。必要とされている」ということには大変敏感です。できれば家事などお母様と一緒にやる、一部を任せるとしていただきたいのですが、難しいようならデイサービスなどを利用してお母様が「できる場」を作っていただきたいです。</p>
<p>遠方に住む父のものが忘れが心配です。テレビばかり見ているので、予防のために何かできることはありますか？</p>	<p>遠方だと日頃の様子が分からないので心配ですね。認知症の予防は日常生活の中に取り入れて無理なく行っていただきたいです。自宅で過ごすのが好きな場合はテレビの体操番組を見て一緒に運動するよう促したり、脳トレの本を送ってみる。散歩を日課にできるようなアプリを入れるなど、お父様が好みそうなことから始められるようサポートしてはいかがでしょうか。また、成果を確認したり、帰省した際は一緒にやるのもおすすめです。私も帰省した際は父の認知症予防のために散歩や脳トレと一緒にやっています。</p>
<p>新しい認知症治療薬がアメリカで認められたと聞きました。どのような効果があり、今後日本でも利用できるようになるのでしょうか？</p>	<p>アルツハイマー型認知症の治療薬としてアメリカで迅速承認されたのは「レカネマブ」という薬です。アルツハイマー型認知症の原因は「アミロイドβ」というタンパク質が脳にたまることと考えられていますが、レカネマブはアミロイドβを取り除くことで、アルツハイマー型認知症の発症や進行を抑え、症状の悪化を防ごうという薬です。日本でも16日に承認申請を出したことがニュースになったかと思えます。承認の可否や時期については未定です。また、この薬は早期のステージで投与する必要がある、持病によっては、薬の投与ができないこともあり、誰でも使えるとは限らないという課題もあります。ですが、認知症を根本から治療する方向として大変注目を集めている薬なので、保険診療が適用されれば広く使用が可能になると思います。</p>

※本内容は2023年1月18日時点の情報になります。